



令和元年 11 月 27 日

しののめ信用金庫 上半期決算概要を公表

コア業務純益は前年同期比 154 百万円増加、当期純利益は 619 百万円を確保

- ▼ しののめ信用金庫（群馬県富岡市 理事長 横山 慶一）は、令和元年度上半期決算概要を公表しました。
- ▼ 貸出金は、事業性融資では卸小売業、建設業、製造業、医療・福祉等を中心に資金需要に積極的に対応したことや、事業性評価に基づく融資の推進をスピード感を持って対応したこと、また、個人向け融資では住宅ローン、消費者ローンについて、店頭や渉外での営業活動に加えて、インターネットで手続き可能なローン商品の取扱いなど、利便性の高い販売チャネルでの推進を強化しました。
その結果、貸出金残高は前年同期比で 4,123 百万円（増加率 0.90%）増加し、457,621 百万円となりました。

預金残高は、流動性預金は前年同期比 32,867 百万円増加したものの、定期性預金が 34,052 百万円減少したことで、預金合計では 1,187 百万円減少しました。公金預金が 2,203 百万円減少したことが要因です。

- ▼ 損益については、貸出金利回りの低下による貸出金利息の減収を主な要因として、業務収益は前年同期比 100 百万円（1.66%）減少し、5,940 百万円となりました。業務費用は、経費の削減により前年同期比 248 百万円（4.73%）減少し 4,989 百万円でした。
その結果、業務純益は前年同期比 147 百万円（18.35%）増加し、950 百万円となりました。本業での収益力を示すコア業務純益（実質業務純益－国債等債券損益）は、154 百万円（25.51%）増加し 761 百万円となりました。
当期純利益は、前年同期比 93 百万円（△13.11%）減少し、619 百万円となりました。



- ▼ 自己資本比率は国内基準で求められている 4%を上回る 7.39%（前年同期比 $\Delta 0.05\%$ ）となりました。コア資本（分子部分）は当期純利益 619 百万円を確保したものの、分母となる貸出金や有価証券のリスクアセットが増加したことによるものです。
- ▼ 金融再生法に基づく開示債権（不良債権）は、16,310 百万円、その内訳は「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」が 2,645 百万円、「危険債権」が 10,918 百万円、「要管理債権」が 2,746 百万円。不良債権比率（金融再生法に基づく開示債権比率）は、3.55%と低い水準であり貸出資産の健全化が図れています。

前年同期（平成 30 年 9 月期）との増減を、主な開示項目ごとに表でまとめると以下のとおりです。

金額単位：百万円

開示項目	30 年 9 月期	1 年 9 月期	増減値	増減率
預金積金残高	987,777	986,590	$\Delta 1,187$	$\Delta 0.12\%$
貸出金残高	453,498	457,621	4,123	0.90%
業務純益	803	950	147	18.35%
実質業務純益	857	960	102	12.00%
コア業務純益	606	761	154	25.51%
経常利益	833	763	$\Delta 70$	$\Delta 8.40\%$
当期純利益	713	619	$\Delta 93$	$\Delta 13.11\%$
金融再生法に基づく開示債権（不良債権）	18,607	16,310	$\Delta 2,297$	$\Delta 12.34\%$
開示債権比率（不良債権比率）	4.09%	3.55%	$\Delta 0.54\%$	—

（計数については単位未満を切り捨てて表示しています。）

当金庫は、令和元年度上半期の経営内容を開示したディスクロージャー誌を作成し店頭
に備え置くとともに（12 月 2 日以降に店頭で備え置きます）、ホームページ上でも同じ
情報を開示いたします。

本件に関するご照会は、下記までお問い合わせくださいますよう、よろしくお願い申し
上げます。

群馬県高崎市上中居町 58

しののめ信用金庫 神宮・柏村・大島（総合企画部）

TEL.027-330-1174